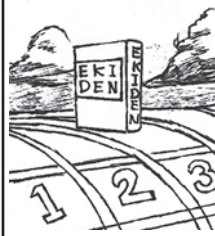


読書 駅伝



言葉で綴られた小説の内容を、絵で伝える事はどこまで可能か。

例えば、一冊の本を何人かで分けて読み、読んだ内容を絵にして次の人に渡し、次の人も渡された絵と読んだ部分を元に絵を描いて渡していく事で本の内容全体を把握できるのか。もし絵だけで本の内容が伝えられるならば、絵を見て話の内容を把握するという画期的な読書が楽しめるかもしれない。

という訳で、読んだ本の内容を絵でたすきの様につないでゆく『第一回 助っ人読書駅伝』の開催をここに宣言するのである。走者は一区から順に関口、松倉、小野、本池、天野。しかし、読んで内容を絵にしました、というだけではつまらないので、ここはあえて書名を伏せ、本のちらしのカット絵を担当している鈴木先輩がそれぞれの絵を見て内容を推理するという形式で五人の軌跡を追ってみる事にした。果たして元美術部員の鈴木先輩はどこまで本の内容を読み取れるのか!? 読者もぜひ五人の読んだ本を推理してみてくれい!

一走 関口 鉄平



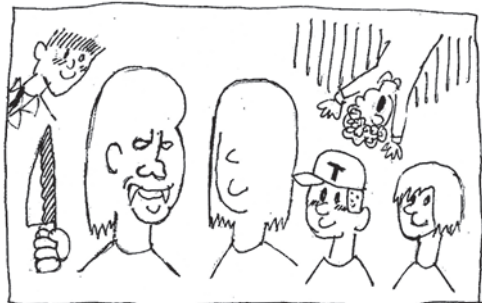
鈴木 お金が無い、ぎざぎざの中を女がトロッコで駆け抜けている。一枚目から理解を絶しているがへお金がかかる猛スピードでトロッコみたいな乗物「ジェットコースター」とすると物語の舞台は遊園地であるという事を意味しているのか。

二走 松倉 史明



鈴木 全然繋がってない気がするが場面が替わったのだろうか。左の男は一枚目の女の彼氏であり、ジェットコースターで目が回ったのかもしれない。右の若い男は影らしきものの伸び方からすると左の男の背後にいるように見えるが、これから何かするところなのではないか。

三走 小野 和哉



鈴木 やたらと人の多い絵だが、中央になまはげとのつべらぼうがいて、上では人が気絶しているところから遊園地のお化け屋敷ではないかと思われる。左端の男は服装からして二枚目の男だろう。女の脇に帽子をかぶった少年がいることからするとこの二人は実は夫婦だったようである。二枚目に出てきたもう一人の男の姿が見えないが、やはりあの男は犯人だったのではないか。

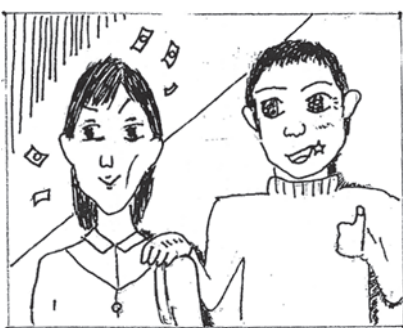
そして、二走・三走の部分で犯人がわかるというあたりから、間に犯人視点の文章があった可能性が疑われる。

四走 本池 彩



鈴木 小さくてわかりづらいが、中央で女が右往左往し、アトラクションなのか飛行機や家の周りでお金が無くなる。三枚目に出てきた子供の姿が見えないところから、とうとう若い男が誘拐犯として、身代金を飛行機のアトラクションやお化け屋敷などに分散して用意するよう指示したサスペンス感高まるシーンなのではないか。

アンカー 天野 慧



鈴木 落ち込む妻と励ます夫。ハッピーエンドっぽくないところから誘拐事件の結果女は財産を失ったのだから。しかし、夫の表情が明るい事からすると実は二枚目の絵は二人がグルである事を表している、その目的は妻から金を奪う事だったのではないか。

鈴木 という感じで結局この本は、『遊園地が舞台の狂言誘拐事件の話』だと思いが鉄平、当たってる?

関口 何一つ当たってないですね。という訳で、鈴木先輩は全く内容を読み取れなかったのだった。この本の正体は4ページの解答を見よ!